

横浜市インフルエンザ流行情報 18号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

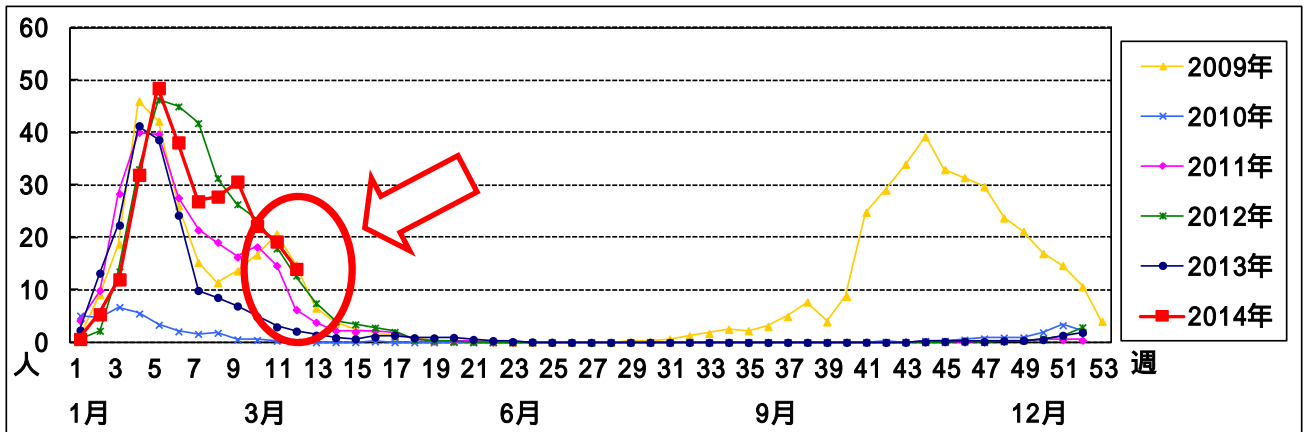
《トピックス》

- 3週連続で報告数が減少していますが、依然として流行警報解除基準値（定点¹あたり10.00）を上回っており、引き続き注意が必要です。
- 感染予防や早期受診などの対策²が重要です。

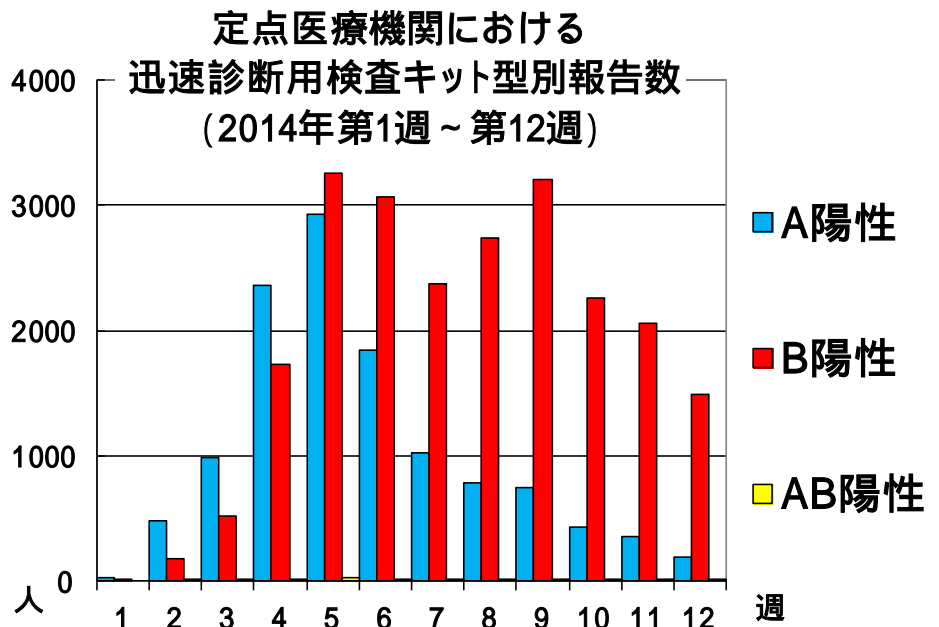
1 定点・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内152か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

2 [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 **市内流行状況:**市全体の定点あたりの患者報告数は、第12週(3月17日～23日)14.01と、3週連続で減少しましたが、流行警報の解除基準値(定点あたり10.00)を上回っており、もうしばらく流行に対する注意が必要です。

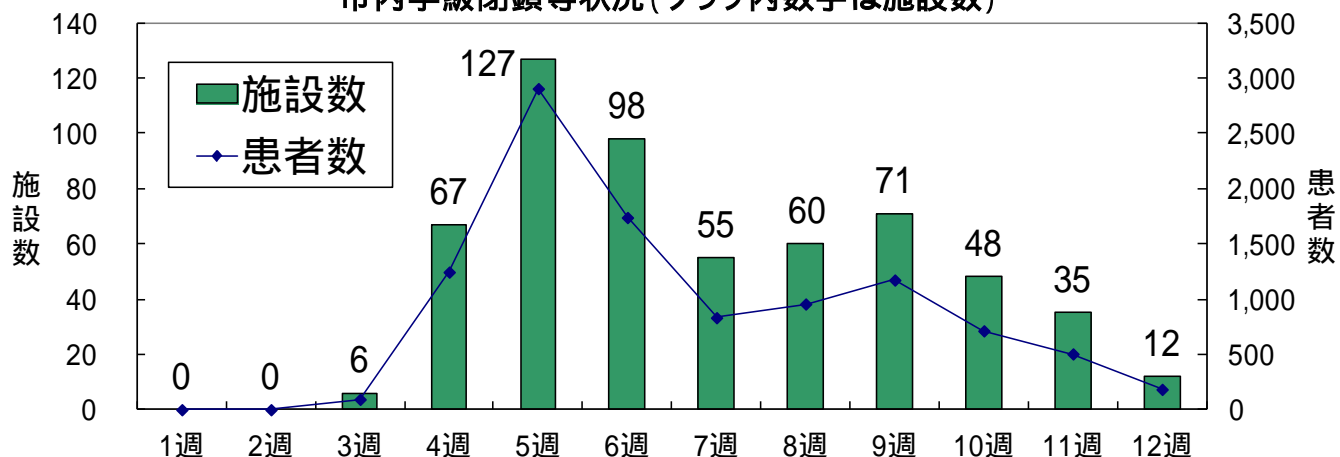


2 **迅速キット結果:**第9週以降A型、B型ともに減少しています。第12週はA型11.7%、B型88.1%、A型B型ともに陽性0.2%でした。第3週からB型が占める割合が増え続けています。



3 市内学級閉鎖等状況: 第9週以降減少が続いています。 第12週の施設種別では、小学校11件、幼稚園1件でした。

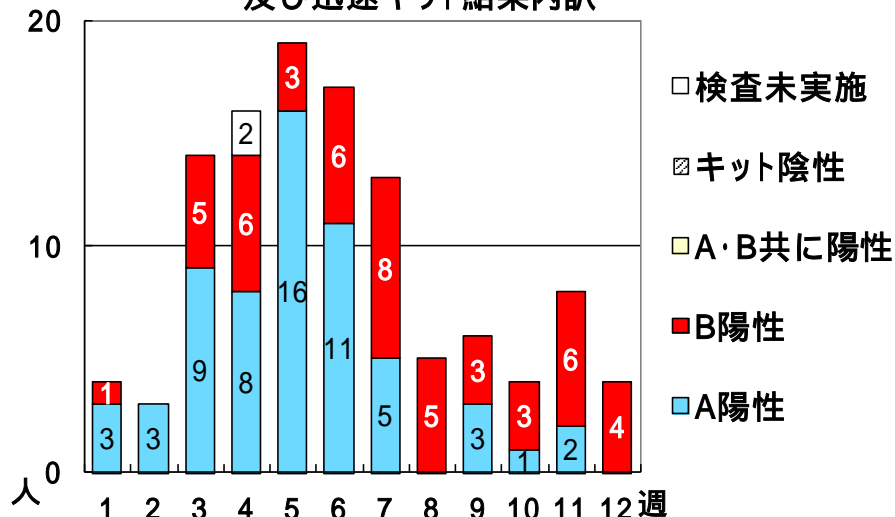
市内学級閉鎖等状況 (グラフ内数字は施設数)



4 入院サーベイランス: 基幹
 定点医療機関³における、
 第12週のインフルエンザ入
 院患者数は、第11週に比
 べて減少しました。迅速キ
 ットの結果は、全てB型で
 した。

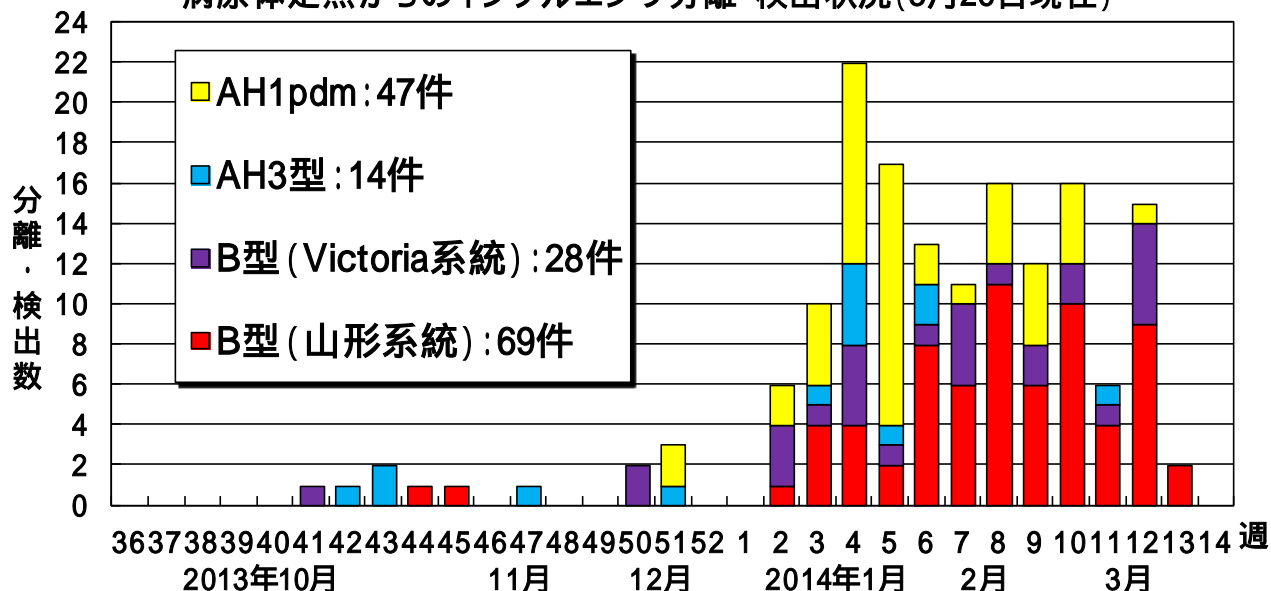
3 基幹定点: 患者が300人以上入院できる病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。

基幹定点医療機関インフルエンザ入院患者数及び迅速キット結果内訳



5 市内病原体検出状況: 第6週以降B型、特に山形系統が多く検出されています。なお、Victoria系統は今シーズンのワクチンに含まれていません。

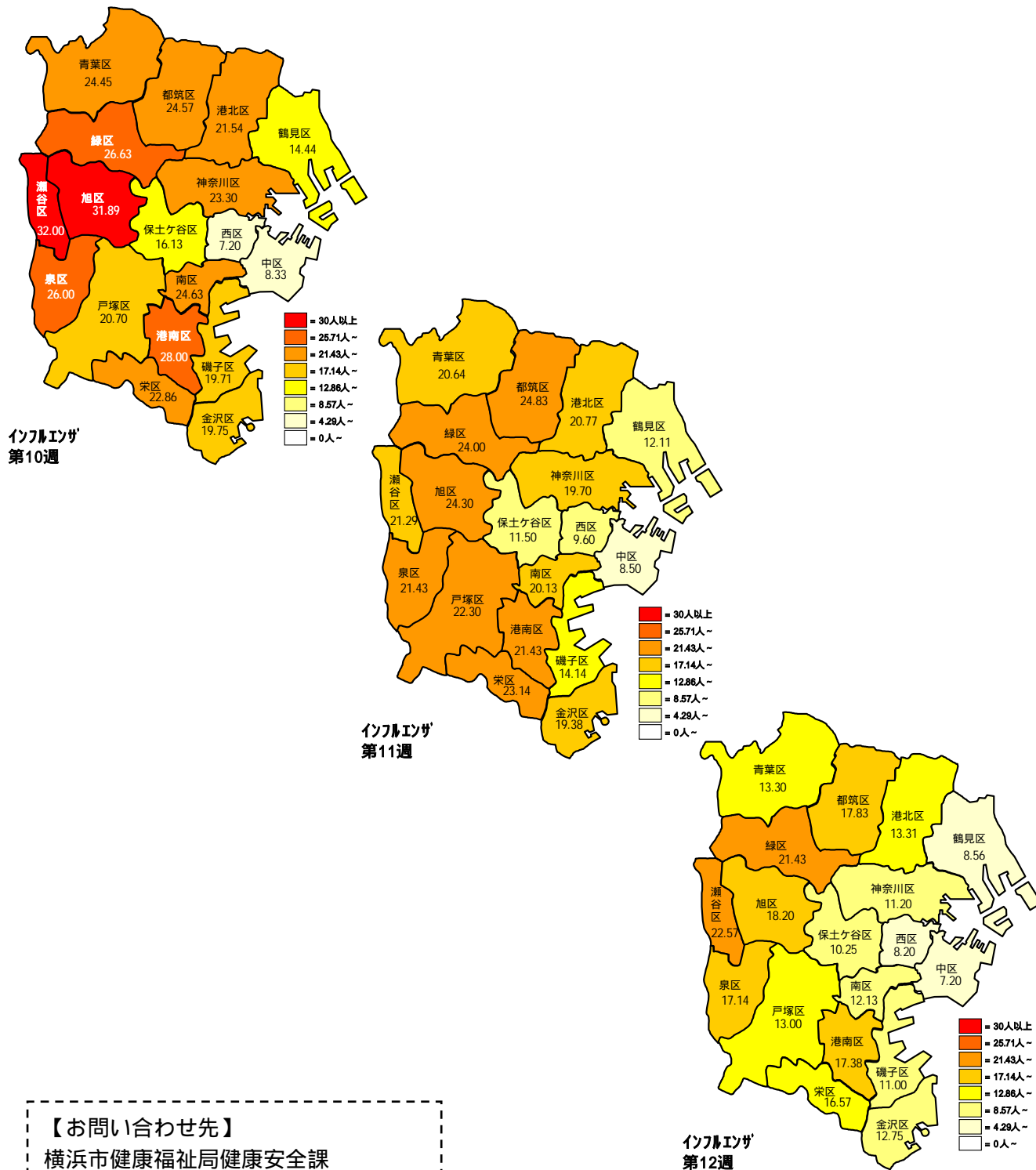
病原体定点からのインフルエンザ分離・検出状況(3月26日現在)



6 **インフルエンザ脳症**: AH1pdm09 型によるインフルエンザ脳症が、第 12 週に 1 件(10 歳未満)ありました。今シーズンは、第 4 週にも 1 件(AH1pdm09 型、10 歳未満)報告されており、引き続き注意が必要です。

7 **分離株の耐性検査**: 衛生研究所で **AH1pdm09 型の 76 株を検査したところ、耐性株(275Y)が 1 株見つかりました。**今シーズン北海道で地域流行していた株との関連については、現在検査中です。

8 区別流行マップ



【お問い合わせ先】
 横浜市健康福祉局健康安全課
 TEL 045(671)2463
 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
 TEL 045(754)9815